

『愛する心を養う』 ～ 責任を全うする ～

2025 年 2 月 11 日は『建国記念の日』の祝日であった。【国民の祝日に関する法律(祝日法、1948 年 7 月 20 日法律第 178 号)第 2 条は、『建国記念の日』の趣旨について、『建国をしのび、国を愛する心を養う。』と規定している。1966 年の祝日法改正により国民の祝日に加えられ、翌 1967 年 2 月 11 日(政令により規定)から適用された。】と紹介されている。

2 月 11 日は、筆者の祖父の樋野卓郎(1888 年 11 月 25 日～1972 年 2 月 11 日)の『祥月命日(しょうつきめいにち)』でもある。そもそも筆者の名前は、息子を太平洋戦争でなくした祖父が、家を継いだ末っ子の母:樋野壽子(1923 年 2 月 20 日～2019 年 6 月 3 日)の 3 人の子供(誉・誠・興夫)の末っ子の長男:筆者に『家を興す』の願いを込めて名付けたと、祖父の膝に抱かれて聞かされた幼年時代の思い出が鮮明に脳裏に蘇る。

【『興』は『国を興す 産業を興す 振興 興起 興隆 再興 復興』】とある。そして【樋野興夫(ひのおきお)＝火のおきを！】として、『われ Origin of fire たらん ～ がん哲学余話～』(to be 出版 2005 年)(画像)の発行が実現された。人生の不思議な繋がりを痛感する日々である。

筆者の誕生の年(1954 年 3 月 7 日)の【母の元旦の初夢は『富士山を見た』と、幼児の時から『富士山子』(画像)と母に励まされた】ものである。故に『富士山』には特別な思いがある(画像)。【幼年時代のインプリーディングは生涯に影響を与える】ものである。これが『愛情の原点』でもあろう！

母は、島根県出雲市大社町鶴峠(画像)の自宅に於いて、安らかに 96 歳の天寿を全うした。母の葬儀で、筆者は喪主として、『天寿を全うし、地上の長い旅路を歩み、様々の責任を全うし、召された母に 深い敬意を払います』と挨拶をしたことが 鮮明に思い出された。5 月 5 日(こどもの日)は、2013 年 5 月 5 日に 92 歳で逝去した父(廉平)の命日でもある。家族で『天国でカフェ』を行うことが、筆者の夢である。

われ
Origin
of
fire
たらん

がん
哲学
余話

順天堂大学医学部病理学教授
樋野興夫 著



1

赤ちゃんに向けた無邪気な愛を忘れない



OKIちゃん誕生 !めでたし!

『種を蒔く人になりなさい』(いのちのことば社)より